

## 1) 刈取りの考え方



稲刈りは、昔、集落行事や家族総出で行う行事みたいなものだったが・・

乾燥も稲架に掛けていたので、乾燥機能力なんて考えてなく、晴れてたら子供から大人までみんなで作業していたなあ

今は田植え時期や籾の充実進捗を考え、天気予報と積算温度等を参考に作業計画を立て行う一般作業となってしまったようだな。

稲刈り日は以下の情報を参考に、自分の田んぼの状態と天気予報・作業能力を総合的に考えて決めましょう！

- ①田んぼ毎の出穂期を把握しておく(地図等に月/日を記載しておく)
- ②普及センターHP や気象情報、各事業所生育調査代表田んぼ(地域解析ほ)の積算温度を把握しておく
- ③大まかな「刈取計画」を立て、機械・乾燥機能力+手伝ってくれる人(労働力)の確保状況と天気予報を勘案し、ほ場毎の「刈取りと乾燥」計画そして籾摺り色彩選別を通すかの有無等段取りを決めます。
- ④田んぼ毎の「籾の黄化率」や「田んぼ土の締り(乾き)具合を確認して作業に入ります。

この頃は、天気予報の精度もあがったが、ゲリラ豪雨やいきなりのフェーンなど、計画を立てとっても突発的に変更を求められたりもすることが多くなったな。

計画には余裕をもって、「刈り取り始め」を意識するとともに「刈遅れ」に注意し出穂期が○月○日だったから、△月○日迄には作業を終えるという考え方が重要だな。



### ①出穂後の積算温度とは

出穂期から毎日の日平均気温を足していった温度を示し、高温年では 900～950℃に達した時からが刈取り始めの目安となります。

### ②高温登熟の年とは

近年は穂が出てからの気温が高く、登熟が早まる傾向でフェーンの遭遇や登熟途中の水不足や刈遅れで「胴割粒」「基部未熟粒」が発生しやすくなっています。

高温年は積算温度で 50℃ぶん前倒して平常年より2日程度早めにする事で刈遅れを回避できるので、今後発表される「稲作速報収穫期版」を参考に、登熟期間を決定しましょう。

### ③令和 7 年産の留意点

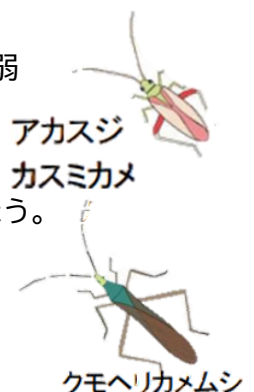
ア:6 月からの異常高温による稲体力衰弱・葉色低下・根の活力低下に加え、渇水による衰弱もあり、気象が回復しても満足な登熟とならない⇒高い整粒歩合にならない可能性があります。

○コンバインの走行重視でなく登熟が最後まで順調に進むよう「飽水管理」を継続しましょう。

イ:8/5 からの降雨で気象が大きく変わりましたが、昨年も出穂後に斑点米カメムシが多発したように高温が続くと斑点米発生リスクが高まります。⇒次年度の雑草発生を減少させるためにもヒエの除去を行いましょう。併せて籾摺り後の玄米を観察し斑点米が多い場合は「色彩選別機」の活用も検討しましょう。

ウ:胴割粒はフェーンや晴と雨の交互に遭遇して玄米中の水分バランスの崩れから発生しますが、出穂してから 10 日間が 33℃以上の高温に遭遇すると「胴割れの卵」ができ、発生率を高めるので、籾黄化率確認時には籾を取除いて玄米の割れ状況を観察しましょう。

刈取予定日が後なら、作業を早めるか、乾燥機を「ゆっくり・丁寧乾燥モード」を選んだり「二段乾燥」を行い乾燥速度を遅くして胴割れを抑えましょう。乾燥調製の留意点をまとめたポイントを HP に掲載しています。



☞ 乾燥前の玄米でも、緑光(波長 500-750 nm)を透過させると小さなヒビ(亀裂)も見えやすくなります。

「百きん」で緑 LED テープレートや緑 LED ライトが販売されているのでプラ製ミニタッパにぐるぐると入れて透過光で観察すると発見しやすい！

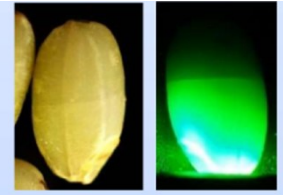


写真1 胴割粒(風の子もち)  
左：肉眼  
右：透視器 (TX-300)

オ: 今年は穂揃いが悪く、不稔も多いので

『富山県方式(県栽培指針 P107)』上位 3~4 本目 2 次枝梗粃(その穂の最終開花粃)の黄化を確認したら適期』はお薦めしません、手間がかかりますが、代表穂を抜き取り、粃をカルトンに並べて黄化粃だけ寄せて割合を見る方法がお薦めです。

やり方

①積算温度の刈取り適期の目安温度に近づいてきたらほ場中央で、粃の黄化程度が平均的な穂を 5~6 本程度抜き取る。

②全粃を穂軸から外す

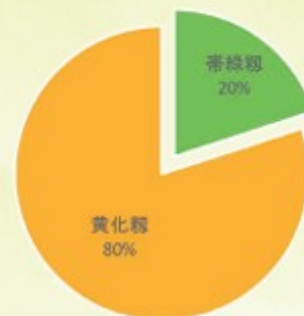
カルトン(深みのある皿)で穂を挟み、穂軸を引くことで脱穀することができます。

③黄色の粃と緑色の残った粃を分別します

直径10cm程度の皿に粃が重ならないように並べ、「黄色い粃」と「緑色の粃」を分けて「黄色い粃」が80%の場合、黄化率80%と判断する。



黄化率80%モデル

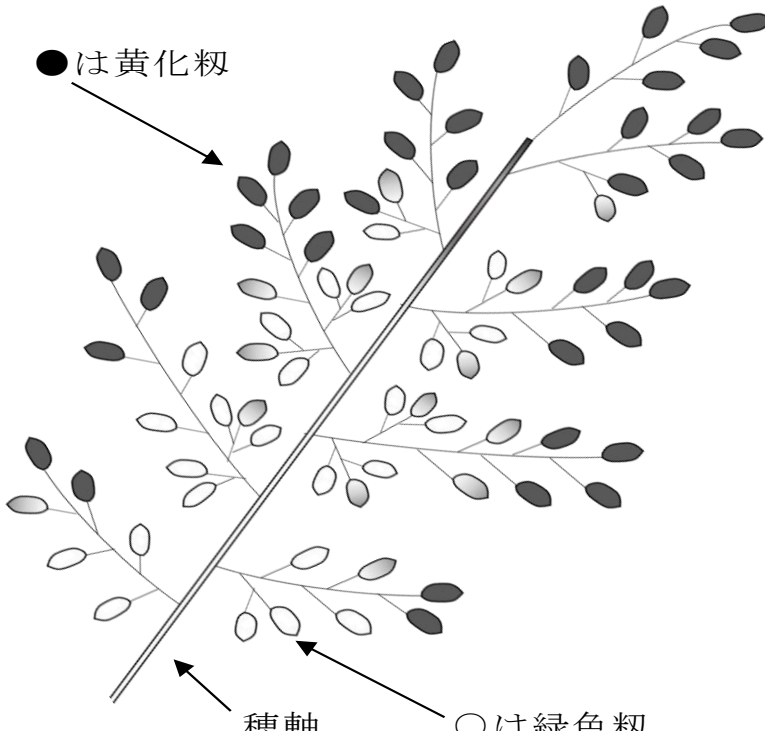
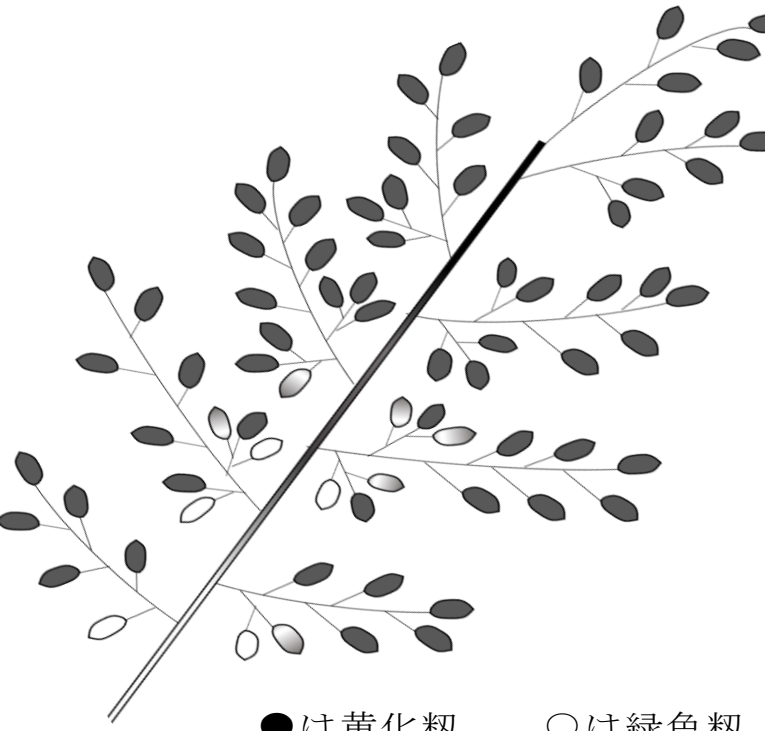


# 令和7年度 佐渡米未来プロジェクト水稻刈取り指導会

## ●刈取り適期の判断について

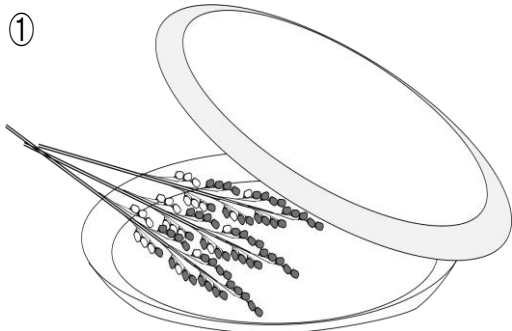
刈取り適期 黄化率が85～90%が刈取り適期です。また、高温の年は葉より先に穂が熟し、ほ場全体が緑色でも穂を良く確認し、判断してください。

しかし、今年度については出穂のタイミングがほ場内でバラついているため適期の判断には注意が必要です！

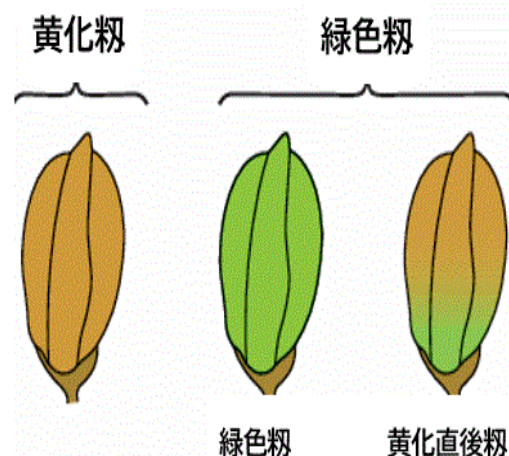
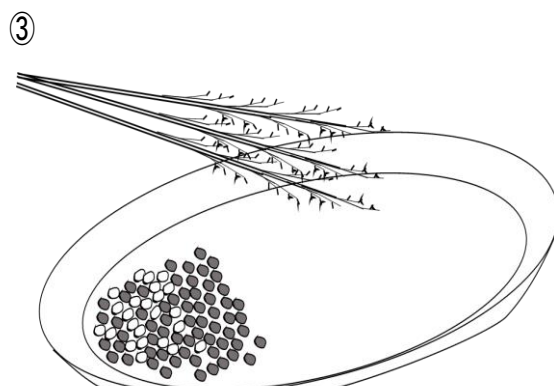
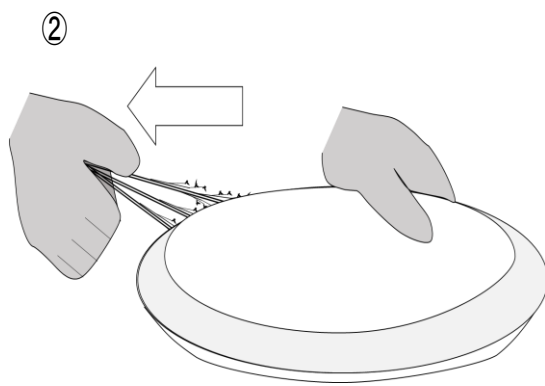
| 収穫適期 7～10日前<br>(黄化率割合50～70%)                                                                                                                                         | 収 穫 適 期<br>(黄化率割合85～90%)                                                                                                                                     |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  <p>●は黄化粃 ○は緑色粃</p> <p>穂軸</p> <p>各枝梗上部の粃(上・中位1次枝梗粃)が黄化し始めた頃の見た目。○青色粃が多く穂軸も青い。</p> |  <p>●は黄化粃 ○は緑色粃</p> <p>軸の中程が枯れ込んでも、軸元付近の青色粃は黄化が遅く残る。ある程度見切りをつけて刈り取る。</p> |

## ●ほ場中央で、粃の黄化程度が平均的な5～6穂程度(約400粃)を抜き取り、下記のように粃の黄化率を確認しましょう！

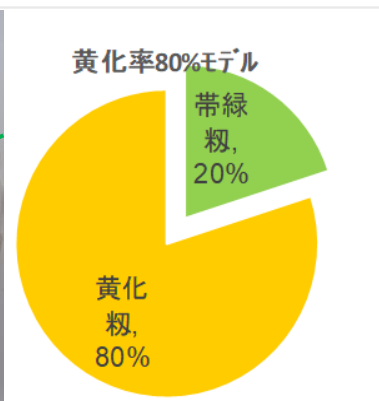
### ●白皿（カルトン等）を使った黄化率の見方



- ① 黄化の進みや穂の大きさ(または粒数)が中庸な穂を皿0.5～1枚分(5～6本)程度と白皿を用意する。(皿は2枚あると良い)
  - ② 皿で穂を挟みながら茎を引っ張り、穂と切り離してバラバラにする。
  - ③ バラバラにした穂を寄せて、全体の青粃、黄化粃の概ねの粒数や割合を見る。
- ※ 粃が濡れていると黄色が強く見えるので乾いた粃で見る。



粃の基部(小穂軸・護穎)が黄化し、粃先端から黄化が始まっていて粃(内外穎)の基部側に緑が残っている「黄化直後粃」も緑色粃とする



## ●登熟期の高温の影響について

登熟期間が高温だったため、基部未熟粒や胴割粒の発生が懸念されます。

さらに増加しないように、適期をのがさず、遅れずに収穫しましょう！

⚠ 畦畔際周辺部や水口、水尻側では精度が低いいため必ずほ場の中心の穂で判断しましょう



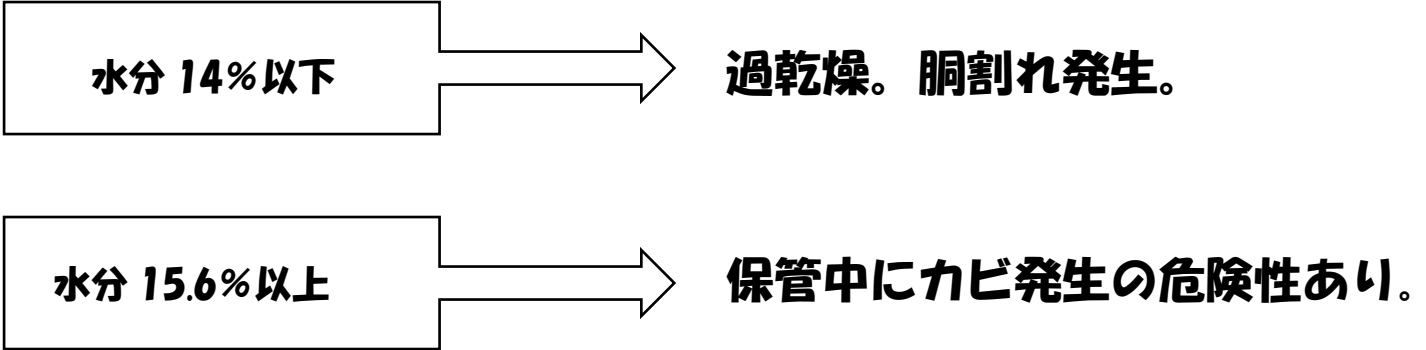
粃を紙袋に入れ3～5日、日光のあたる窓辺に置いて粃水分が20%以下に下がると、手回し粃摺器で脱ぶ出来ます。下から光を当てると胴割れ被害状況が確認できます。  
**立毛胴割れが確認できた場合はゆっくり乾燥をしましょう！**



●乾燥・調整について

(1) 仕上げ水分 15.0%を目指す！

乾燥中水分



※ 乾燥機の水分表示だけでなく、お持ちの手持ち水分計でも測定してください！

(2) 乾燥時の注意

- ①刈り取り後は、すみやかに乾燥機に張り込み通風する。  
この時、雨や露で濡れた粳の場合は、バーナーに点火せずに4～5時間ほど通風してから乾燥しましょう。
- ②乾燥後、粳が温かいうちに粳摺りすると「肌ずれ粒」が発生しやすくなる。  
また、外気温が低いときに送風冷却しながら排出すると「胴割粒」が増加しやすくなるので、粳の温度が外気温まで下がってから粳摺りする。
- ③ロールの間隔を必要以上に狭くしても脱ぶ率は上がらず、「肌ずれ粒」が多発する。  
(通常ロール間隔は0.8mm～1.2mm)  
また、ロールのゴム厚残が5mm以下になったら、新品と交換してください。
- ④調製機的能力を超えた流量では、網下の玄米も残り、整粒歩合の低下につながる。
- ⑤二番口からでたものは戻さない。

出荷前の最終チェック

- 粳すり作業開始は ⇒ 乾燥後、粳の温度が常温まで下がり、水分のバラツキがないことを確認して行う。
- 製品のチェック ⇒ 製品に粳の混入やくず米の混入がないようにこまめに確認する。
- 量目不足にならないように ⇒ 作業中もこまめに確認して、計量は適正に行う。

●土づくりについて

近年、異常気象となる年が多くなってきています。気象変動に強い稲づくりのために土づくり資材や稲わら・もみ殻の活用が効果的です。  
また、年々、収量や品質が安定しない場合は何かしらの栄養分が不足し始めている可能性があるなので、土壌診断をし土の栄養状態を確認しましょう！

おすすめの土づくり資材について

| 目 的           | 資 材          | 規格   | 施用量<br>(10aあたり) | 期待される効果                                                            |
|---------------|--------------|------|-----------------|--------------------------------------------------------------------|
| 総合土づくり肥料      | 佐渡専用ソイルキーパー  | 20kg | 40～60kg         | ケイ酸、リン酸、苦土をバランスよく配合した、佐渡地域専用土づくり肥料                                 |
| ケイ酸の補給        | スーパーシリカプレミアム | 20kg | 40～60kg         | 根の酸化力が高まり、根腐れ、秋落ちを軽減。登熟が高まり品質や食味が向上。<br>病虫害や倒伏軽減。                  |
|               | シリカリユウ17     | 20kg | 60～100kg        | 多孔質の形状により、上記のケイ酸効果に加え、保肥力・保水力が向上。<br>(低地力、肥料切れが早いほ場にケイフンとの併用がオススメ) |
| リン酸の補給        | 粒状ようりん       | 20kg | 20～40kg         | ケイ酸を含み相乗効果により分けつを促進。登熟や食味の向上。                                      |
| 加里の補給         | けい酸加里プレミアム34 | 20kg | 20～40kg         | ケイ酸を含み相乗効果により光合成を助け、粳へのデンプンの移行を促進。<br>登熟や食味の向上                     |
| 鉄の補給          | アイアン米スター     | 20kg | 60～100kg        | 鉄30%のほか、ケイ酸を20%を含有。<br>茎や丈を丈夫にし、倒伏軽減効果や受光態勢を改善及び、ワキの発生軽減           |
| マンガンの補給       | みつパワー        | 20kg | 40～60kg         | マンガン10%ほか、数種ミネラルを含む土づくり肥料。ワキ、ごま葉枯れ<br>秋落ち対策では春の土づくりに。              |
| 地力の維持         | 発酵ケイフン       | 15kg | 30kg            | 低地力地域では45～60kg                                                     |
| 稲わら等の<br>腐熟促進 | アグリ革命細粒      | 2kg  | 2kg             | 酵素パワーで分解を促進                                                        |
|               | スーパーわらゴールド   | 15kg | 15kg            | 微生物増量で分解を促進。10a当たり1袋散布。                                            |

## ●ベントナイトの活用について

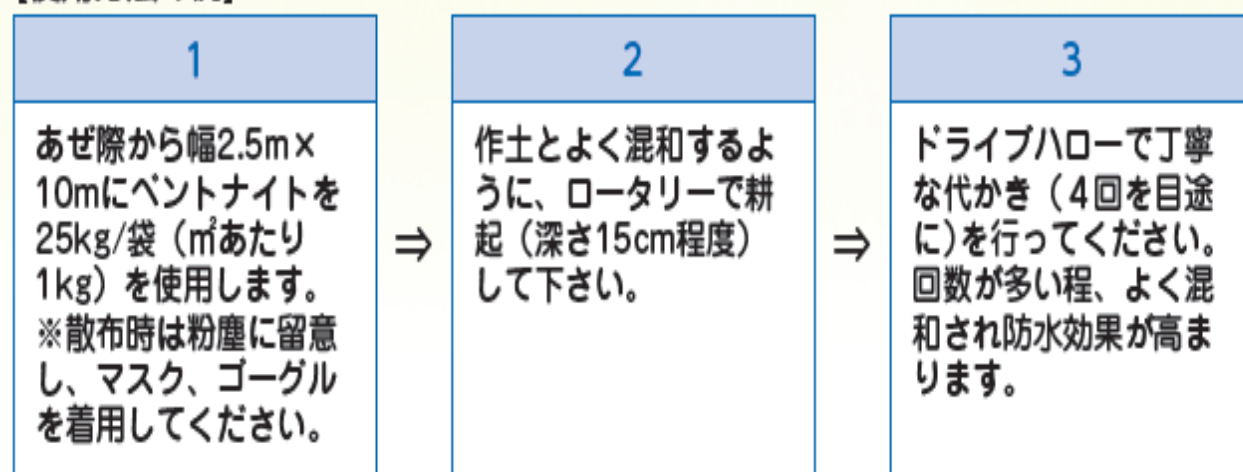
6月～7月にかけての高温・少雨の影響によりほ場で漏水が確認された場合は次年度作に向けて改善が必要となります。

改善方法の1つとして「ベントナイト」の活用が効果的です！

### 【ベントナイトの活用方法】

- ・「ベントナイト」は吸水力に優れ、水を吸うと膨張するため、漏水箇所に散布して作土層に混ぜ込むことで孔隙を埋めることができ、漏水防止に有効な資材です。

### 【使用方法の例】



詳しくはこちらのQRコードからご確認ください



JAHPのR6年3月  
VOL. 368号4ページ



JAのHP【緊急情報】  
漏水を確認し用水確保を！

少しでも以前より水のたまりが悪くなったと感じたら、収穫後にどこかで漏水していないか必ず田んぼの見回りを行いましょう！



## ●JAへの出荷ご協力のお願い

# お米は全量

# JA佐渡のお任せください！

- ・令和7年産のコシヒカリは、24.8万俵以上の集荷を目指しています！
- ・JAは販売先から継続した信頼を得るため、安定数量を供給してまいります！
- ・JAへの出荷契約数100%以上にご協力くださるようお願いいたします！

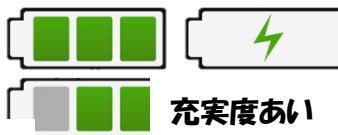
## 佐渡農業協同組合

# 稲刈り時期の判断は・・・

金・品質・収量・てま

「経営判断！！」

早刈り



## ◎適期に刈るのが BEST

①早すぎ高水分粃：コンバイン調製ロスが多い、その後の管理によって変質粃となり品質低下や乾燥燃料代がかかる

VS 刈遅れで発生が高まる「基部未熟」「胴割れ」を抑える。

②適期：コンバインも乾燥機も、粃水分 25%前後を前提に設計されており、黄化粃 85～90%であればコンバインロスも、乾燥調製費用も、被害粒発生も抑えられる。

③刈遅れ過乾燥・胴割れ・穂軸痛み・枝梗痛み迄遅くなると、コンバインロス・品質低下(胴割れ・基部未熟)が増え、玄米のつやや粒張りも衰え等級低下を招く。

◆ほ場全体をよく観察し、黄化率と田んぼの排水(ヌカルミ)を確認し、どれだけ刈ったら乾燥機一杯になるか？乾燥させ、粃摺り迄どれだけ貯蔵できるか予想して作業計画を立てる。

●田んぼを覗て、まず目に入るのは「葉っぱ」の色(\*糯品種は止葉が垂れて穂が目立つけど...)観察しなければならないのは「穂」「粃」の色

●穂を 1 本だけ観察すると...穂軸の色に目が奪われてしまう、観察しなければならないのは「粃の黄化」

黄化率は「慣れが必要です」[https://www.tochigimai.jp/suitou\\_colorchart/](https://www.tochigimai.jp/suitou_colorchart/)

### 黄化率の見方・判断の仕方

①出穂期に(佐渡特有)強風に遭遇した

②出穂し始めたのに、午前中に雨が多い日が続いた

③初期生育が悪く、穂揃いが悪い：株を下からしごくように持ち上げ穂のふくらみのある部分が同じ高さでない

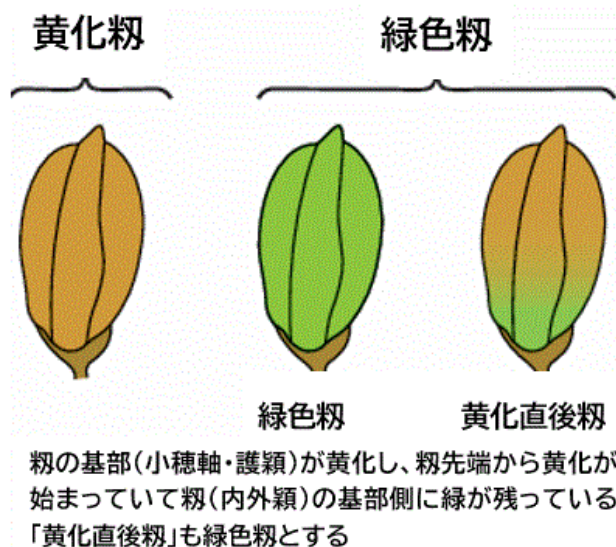
④止葉が増葉(減葉)し出穂がずれた、穂長の長さが異なる

⑤内穎褐変病に罹病している

◆黄化粃だけを選別できる「目」が必要です、「慣れ」が大切！

特別な道具入らない

白っぽい皿：直径 9 cm 白シャーレ(百均の鉢皿)5穂×80 粃≒400粒





## 内穎褐変病

登録農薬は無い。種子消毒や稲わらの鋤込みが効果的である可能性。

出穂時の高温・降雨で発生が助長

玄米の生育抑制・停止で茶米・死米・未熟米となる



内穎褐変病で登熟に障害となり充実不足



健全籾

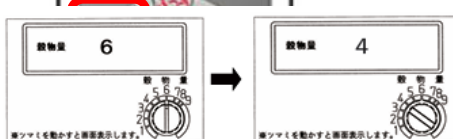


内穎褐変病だが冷由まで充実した籾

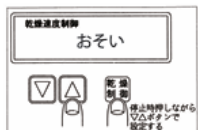
高水分籾や、巢文にバラつきがある時は、「ゆっくり・マイルド」乾燥や「籾水分を 20%程度まで落とし、4～8 時間程度乾燥を停止。その後、出荷水分まで再度乾燥開始し、始めの乾燥で、高水分の籾と低水分の籾の均一化させバラツキの少ない二段乾燥にして胴割れや水分戻りを少なくする。



①「穀物量ツマミ」を2目盛り（約5℃）程度下げて乾燥するもしくは、「二段乾燥」で乾燥時間をかけて乾燥します。これにより、水分ムラが少なくなり、自動水分計の精度も向上します。



②乾燥速度を「ややおそい」もしくは「おそい」にして乾燥して下さい。



！乾燥機による胴割米の発生は通常ありませんが、胴割れを促進させることはあります。胴割れの可能性のある籾は乾燥前に籾殻をむき、玄米の状況を確認して、乾燥して下さい。

大島農機



R7,8,28クモヘリカメムシ多発緊急調査(予察法20回掘い取り頭数)

| ×有△少○無/刈取済 |       | 畦畔  |        |        | ほ場内     |        |         |             |
|------------|-------|-----|--------|--------|---------|--------|---------|-------------|
| 作目         | 地区    | 草刈り | イネ科穂   | クモリ(頭) | イネ科穂    | クモリ(頭) | アサジ*(頭) | 他           |
| 新之助        | 金井新保  | △   | ×      | 1      | ×       | 3      | 3       |             |
| 新之助        | 畑野畑沖  | ○   | ○      | 0      | ○       | 0      | 0       |             |
| エンレイ       | 新穂長畝  | ×   | ×メシバ*多 | 26/36  | △メシバ*/ヒ | 13     | 1       | アサジ*ヒメムシ2   |
| 新之助        | 新穂長畝  | ○   | △      | 4      | ×       | 5      | 4       | アサジ*成5,幼12  |
| エンレイ       | 新穂正明寺 | △   | △      | 12     | △       | 1      | 0       | アサジ*ヒメムシ1   |
| エンレイ       | 金井水渡田 | ○   | △      | 0      | ○       | 0      | 0       | アサジ*ヒメムシ1   |
| 新之助        | 金井水渡田 | ○   | ○      |        | ×       | 2      | 2       | アサジ*成21,幼16 |

捕虫したクモヘリが産卵,楕円形状に10卵

No. 119(平成7年3月) 農業の新しい技術 分類コード04-03 熊本県農政部

県内の大豆を加害するカメムシ類の優占種は、イチモンジカメムシ、アオクサカメムシ、クモヘリカメムシである。

中央農研研究報告 9: 17-74 (2007) Bull. Natl. Agric. Res. Cent. □ クモヘリカメムシの発生動態ならびに 斑点米被害予測に関する研

ホソヘリカメムシ, ホソハリカメムシ, クモヘリカメムシは, イネやダイズの 栽培開始直後から発生するのではなく, ダイズの莢 あるいはイネの穂が圃場に現れると, 圃場外のイネ科やマメ科植物群落などから飛来して産卵し, 増殖 する

◇北陸ではクモヘリカメムシは斑点米加害虫とされているが関東以南ではダイズ害虫と位置付けられている

